

大神雄子

仁志敏久

川内優輝

福田正博

藤田寛之

# スポーツと

## 女子の戦

国内ツアーはここ数年、男女で明暗がくつきり分かれている。男子は開幕も遅く、試合日程は隙間だらけ。過密スケジュールで盛況の女子に水をあけられている。プロアマ大会や前夜祭

金世代同士の優勝争いなど、選手のつわものは、米ツアーなどの海外に挑戦している。自らが活躍するステージを上げていくのはプロとして当然。日本ゴルフツアー機構も「世界に通用する選手の育成」を掲げているが、その一方で国内の「空洞化」を招き、シレンマに陥っている。選手の危機感は一半端じゃない。プロアマ戦ではフレンド

# 若手男子よ 技術を磨け

で、ゲストの方に「女子は楽しくて、いいよね」と面と向かって言われるのは、ちょっとつらい。フレッシュな若手が続々登場する女子ツアーは、大会スポンサーにとって重要な「企業接待」の場である。プロアマ戦の評価が高い。賞金女王の鈴木愛さんや韓国勢ら実力者と、渋野日向子さんに代表される若手の対決、あるいは黄

網が見当たらない。松山英樹 我々にできるのは飛ばしやボールのスティンコントロール、トラブルショットなど男子ゴルフのすぎぎ、技術という「本質」を磨くことしかない。弾道一つとっても、アマチュアの方とは、かけ離れた弧を描くはず。プロアマ戦で「全然参考にならないよ」と言われるが「まるで違つ」と株価でいえるは男子は今が底値、「買い」だと思いたい。まずは選手それぞれがもっと腕を磨き、レベルアップする必要がある。今季の賞金シード(66人)のほぼ半数が外国勢。はつきり言って、日本の選手は技術という点で物足りない。若手は現状をしっかりと把握して、ショットにすこみを加え、よりハイレベルな勝負を見せないと、ファンやスポンサーに愛想を尽かされかねないだろう。(プロゴルファー)

藤田寛之 福田正博 川内優輝 仁志敏久 大神雄子

# スポーツ

## 新型コロナウイルスの感染

拡大の影響で出場予定だった5月第1週までの8大会が中止や延期になった。この厳しい状況では耐えるしかないが、今は未来を信じてできることを継続するしかない。

その中に9

## 駆け引きの妙味

月に延期されたボストン・マラソンがある。国内の主要大会は必ずペースメーカーがつくが、ボストンは勝負や駆け引きに誇りを持っている伝統ある大会だ。誰が勝つか分からないマラソンの面白さが濃縮されたレースといえる。

優勝した2018年は雨と寒さでスローな展開を予想する選手たちの裏をかいて最

初から1分2分50秒を切るペースで突っ込んだ。普段なら考えられないレースの入りだ。が構わず、集団に吸収されてからも下り坂になるたびに前方で揺さぶった。早めのサポートを任せたジョフリー・ケニヤ(ケニア)が落ちてくることが見えて逆転できたのは40分過ぎ。序盤からかき乱して周囲の体力を奪う策がうまく

近年の世界ランキングは大会の格よりも記録重視。速さに力点が置かれ、ペースメーカーのバックアップは欠かせなくなっている。一方でマラソンが持つ駆け引きや勝負の醍醐味が薄まっている気もする。昨年9月のマラソングランドチャンピオンシップ(MGC)があれだけ盛り上がったのは、筋骨がなかったからだろう。五輪や世界選手権でも自己ベストでは日本代表よりも遅い選手がメダル

ある大会は報酬が1万1千円という話を聞いたことがある。フルマラソンより負担が少なく、優秀な人は評判が広まって各大会に呼ばれる。賞金狙いよりも収入が確実で本数もこなせるので「職業」にしている選手もいる。私もその一。日本の大会で紹介して「これ」と売り込んでくるケニア選手が過去にいた。(プロランナー)